

## 第71回（令和6年度）矢野賞受賞者の概要

たけばやし ひでとし  
**竹林 秀敏** (39歳)  
岡山市南区藤田



### 経営内容：米麦・野菜

(水稲 16ha、大麦 10ha、たまねぎ 4ha、かぼちゃ 1ha)

大学を卒業後、民間企業勤務を経て、平成22年に水稲農家として新規参入し、就農9年目に(株)丸秀ファームを設立した。

積極的にスマート農機を導入することで、米麦とたまねぎを組み合わせた二毛作体系を実践し、特に、たまねぎ栽培では産地最大の生産規模を確立している。令和2年には、歴代最年少でJ A岡山藤田たまねぎ部会の部会長に就任し、産地振興に尽力している。

青年農業者クラブ活動では、単位クラブや地方協議会、県協議会の役員を歴任し、地域農業を牽引している。

地域では、小学生への食農教育や農福連携に注力しており、農村の維持発展に大きく貢献している。

こみやま ひろゆき  
**小見山 裕之** (37歳)  
倉敷市船穂町船穂



### 経営内容：果樹

(ぶどう 0.7ha)

高校を卒業後、民間企業勤務を経て、平成26年にハウスぶどう栽培で親元就農した。就農と同時にシャインマスカットの早期加温による6月出荷に挑戦し、品種と作型を組み合わせた規模拡大を進め、経営の安定化を実現している。

また、房形向上技術の研鑽や地域初となるCO<sub>2</sub>の局所施用など新技術を積極的に取り入れ、県内トップクラスの高品質生産を実現している。

青年農業者クラブ活動では、単位クラブや地方協議会の役員を務め、若手生産者の中心的人物となっている。

地域では、就農アドバイザーとして新規就農者10名の育成に尽力するなど、地域農業の維持・発展に重要な役割を果たしている。

かたぬま けいすけ  
**片沼 慶介** (37歳)  
真庭市上水田



### 経営内容：果樹

(ぶどう 0.5ha)

大学を卒業後、民間企業勤務を経て、祖父のぶどう栽培を継承し、平成26年に就農した。計画的にシャインマスカットやオーロラブラックを導入し、品種の組合せにより規模拡大を実現した。特に、シャインマスカットの徹底した管理技術により秀品率は80%を超え、ぶどう部会でもトップクラスを誇っている。

青年農業者クラブ活動では、地方協議会の会長を務め、県内で初めてぶどうせん定枝のバイオ炭製造に取り組むなど、産地の新たな取組にも挑んでいる。

地域では、2年間の準備期間を経てJ A支部に若手ぶどう生産者の交流の場となる「青年部」を立ち上げ、初代会長として積極的な活動を牽引し、産地活性化に貢献している。